

あす 未来の長生を考える

おだか陽一後援会だより

発行者
おだか陽一後援会
発行責任者：小高信一
長生村岩沼619
TEL・FAX (32) 3949

令和6年 会報
第3号

お答え します



村長 小高 陽一

四月から始まった後援会加入活動の中で、いくつかの質問をいただきました。小高村長がお答えします。

①議員・パワハラ問題

昨年五月に発生した当時の議長による傷害事件では、「あつてはならないこと」「辞職もやむなし」との見解を発表しました。

結果として議長、副議長が辞職しましたが、当事者ならびに議会が決定することとで村長にその権限はありません。

議会は、ハラスメント防止条例を制定し、役場も公用車の利用基準を見直し、再発防止に努めています。

②ふるさと納税の使い道は

令和六年三月末までの寄附額が確定し、平成二四年からの総額は、四二億八六二七万円余となりました。その使い道ですが、過去の一例をあげますと、
・子育て世帯に村独自で三万円給付



八積駅跨線橋

③八積駅跨線橋(こせんきょう)にエレベーターと屋根を付けてほしい

村が計画する「八積駅周辺環境整備事業」では、第二期として長生中側から八積駅北側に向かう都市計画道

・村民全員にインフルエンザの予防接種費用を助成
・公共施設における手洗い設備の自動水栓化
・避難所設備用の簡易テント、間仕切りダンボールの充実など
・なお、交流センターの建設や文化会館の改修時にも積み立てたふるさと応援(ふるさと納税)基金を取り崩して使っています。

路の整備、南北自由通路と駅橋上化を考えています。これは私が就任する前からの計画です。
実現できればエレベーターも屋根の設置も解決できますが、莫大な費用と時間が必要で、実施するとなれば住民の声を聴き、議会とも十分検討を重ねたいと考えております。

④こども園統合後、旧施設の利用方法を考えているか

本村においても少子化が進む中、時期は未定ですが近い将来に三つのこども園の統合は必要だと思っております。統合後残された旧施設の利用方法は未定です。皆さんからの提案など多くのご意見を伺います。

⑤消滅可能性都市について

四月二五日に新聞発表された「消滅可能性自治体」によると、本村は二〇五〇年人口が九八四七人と一万人を下回るものの、若年女性人口の減少率は四七・五%となり、かろうじて消滅可能性からは外れました。令和二年に村が策定した

人口ビジョンでの目標人口は、九四八一人としており、今まで実施してきた中学生への郷育(郷土愛の醸成)ふるさと納税やアイガモ米、ながいきそばオーナー制度による認知度向上策、様々な子育て支援等により、社会減対策は一定の成果が表れ始めていると思われま

⑥女性が働く場所作り ↓企業誘致

今後は自然減対策として更なる出生率向上策を検討してまいります。
村では藪塚地区に広く空いている、県原種農場跡地一六ヘクタールへの企業誘致を千葉県にお願いしています。

三年前、熊谷知事が一松海岸の侵食を視察に訪れた際にも直接お願いし、本年四月一六日にも知事室で懇談した際に再度申し入れを行いました。
昨年度は副村長と担当課長が三回要望活動を行っており、何としても早期の実現をはかります。